

この会の趣旨に賛同し、平成26・27年度にご支援くださった企業・団体は下記のとおりです。

**賛助会員**

株式会社 一の坊	仙台市
株式会社 川崎ボディー	川崎町
株式会社 シベール	川崎町
株式会社 ぜいたく屋	山形市
株式会社 ディクソン仙台	仙台市
株式会社 建築工房零	仙台市
宮城観光蔵王株式会社 えぼしスキー場	蔵王町
宮城マッカラー白石株式会社	白石市
みちのくメンテナンス株式会社	川崎町
有限会社 米澤製材所	川崎町
医療法人 長清会 長岡医院	上山市
青根温泉合同会社	川崎町
川崎鋳業株式会社	川崎町

**賛助会員**

川崎町森林組合	川崎町
社会福祉法人臥牛三敬会 ぱびハウス	川崎町
有限会社大文林業	川崎町
有限会社川崎衛生工業	川崎町
NPOガンバッペッチャー	川崎町
株式会社坊源 山景の宿 流迎	川崎町
(有)植野商店	川崎町
サイト工業(株)	仙台市

**助成団体**

BESS	東京都
林野庁（森林山村多面的機能交付金）	東京都

どなたでも会員になれます！ 川崎町町民および釜房ダム下流域の仙台市や名取市の住民。また、地域に関係なく会の趣旨に賛同し、一緒に活動したい方やこの法人を支援して下さる方が、現在会員として活動を楽しんでいます。

**あなたも一緒に参加しませんか！**

<b>会員の種類</b>	正会員	この法人の趣旨に賛同する個人
	賛助会員	この法人の趣旨に賛同する団体
<b>会費</b>	入会金	2,000円（入会時のみ）
	正会員費	3,000円（年間）
	賛助会員（一口）	10,000円（年間）何口でも結構です。*入会金は不要
<b>振込み方法</b>	<b>銀行振り込み</b>	七十七銀行 川崎支店 普通預金 口座番号 5126053 名義 特定非営利活動法人川崎町の資源をいかす会 理事長 齋藤勝廣
	<b>郵便振替</b>	口座番号 02210-3-68929 名義 特定非営利活動法人川崎町の資源をいかす会

この会は川崎町青根温泉で毎年冬季に開催される「青根温泉雪あかり」では川崎一仙台薪ストーブの会のメンバーがチェーンソーを持参し、雪灯籠作りに参加して地域貢献活動も行っています。



お問い合わせ、入会のお申し込みは下記事務局に御連絡下さい

**特定非営利活動法人 川崎町の資源をいかす会 事務局**

〒989-1501 宮城県柴田郡川崎町大字前川字六方山3-225  
 TEL 0224-87-2270 FAX 兼用 事務担当 宮城  
 事務局メール [k-miyagi@mtc.biglobe.ne.jp](mailto:k-miyagi@mtc.biglobe.ne.jp)  
 URL/HP <http://kawasaki-shigen.jp/>  
 発行人 特定非営利活動法人川崎町の資源をいかす会  
 理事長 齋藤勝廣  
 発行年月日 2016年 5月 30日

# 食料とエネルギーの100% 自給宣言

川崎町の自然と資源を活かし、その豊かな自然を守りながら

100年後に私たちの子孫が「食とエネルギーを100%自給」し

楽しく豊かな暮らしが実現できるように

各々が得意の分野で歩き続けることを宣言します。

私たちの身の回りにはモノが満ち溢れ、便利で快適な生活が営めるようになりました。反面、温暖化、大気汚染など地球規模での環境破壊や、やがて来る化石燃料の枯渇、深刻化する食糧危機という人類の生存を賭けた問題に、今、私たちは直面しています。

「川崎町の資源をいかす会」はこれまでに行ってきた講演会や研究会を通じて、便利で快適な生活をもたらした大量生産、大量消費には大きなマイナス面があること、そして、そのような社会システムそのもの行き詰まりつつあることを学びました。また、きれいな空気、最上流の豊富で清らかな水、様々な生き物が棲む広大な森林と中小河川、緑をはぐくむ田畑、メリハリのある季節、冬の寒さと、更にそれらを活かしてきた「先人の知恵」という、この「川崎町の資源」こそが、行き詰まりつつある状況の突破口になり得ると思うようになりました。そして、3.11 東日本大震災に見舞われ、その思いを益々強く意識するようになりました。

私たちはこの町の豊かな資源・恵みを活かして、持続可能な環境に優しい生活を営み、また、共感する仲間を増やし、その理念に基づいた経済的に自立できる事業を創設・推進し、地域資源循環型社会を構築したいと思えます。

大都会でなく小さな町だからこそできる試みなのです。私たちの子供や孫達の未来に豊かさと幸せをもたらす活動に、みんなで参加しませんか。

## 特定非営利活動法人 川崎町の資源をいかす会

さまざまな活動グループがあります

「自然を楽しむグループ」

「山や森の恵みを活かすグループ」

「川や湖の水の恵みを活かすグループ」

「田や畑の恵みを活かすグループ」

### 自然を楽しむグループ

川崎町の季節の素材をいかした「四季を喰う会」を季節ごとに実施しています。「水源地探訪」は川崎町の資源でもある象ヶ沢水源地を訪れて、おいしくて美しい水をいただいて来て、各自持参したおむすびと白炭を使った焼きたてのニジマス堪能します。また地元で採れた季節の野菜も焼いていただきます。

担当理事：立岡学・大宮忠明

写真：象ヶ沢水源地探訪



◆『貸付森林』で楽しむグループ

講習会では安全な木の倒し方やチェーンソーの使い方・手入れの仕方を学びながらスキルアップを心がけています。

秋の恒例行事「森のお茶会」ではハーブティーや本格的なお抹茶も楽しんでいます。

担当理事：加藤渉



プロが伐倒の指導をします



森のお茶会



チェーンソーの使い方も学びます

山や森の恵みを活かすグループ

◆広葉樹萌芽更新事業

萌芽更新は広葉樹の伐採後、残された根株の休眠芽を萌芽させて森林の再生を図る方法です。老木よりも若木の方がより活発に萌芽しますが、50年生の木でも60%以上の木が萌芽します。また、伐採されたことにより周囲に落下していた種子から天然更新も進みます。老木化している里山の広葉樹林を皆伐し萌芽更新させることにより、水源かん養、水質浄化・土砂崩落防止等の環境保全機能の向上を目指します。また、伐倒木を白炭・薪・原木キノコのホダ木等に利用して、持続的な資源として活用します。



一年でこんなに沢山の新芽が！



一株ずつ調査をしている様子

◆原木きのこの会

スーパーなどでは手に入らない、美味しく栄養満点の原木きのこの作り方を学び、皆で楽しく作って、健康になる「きのこ栽培」の普及を行ないます。

ただいま会員募集中です!! 担当理事：菊地重雄



写真：植菌作業の様子

椎茸植菌時期は11月～12月、なめこ・ヒラタケ植菌は2月～3月に実施しています。  
キノコの植菌体験やホダ木の購入希望も受け付けています。  
詳細については事務局までお問合せ下さい。

◆雁戸白炭の会



笹谷地区は雁戸山の硬い岩や豊富な雑木に恵まれ、炭の中でも良質な白炭をつくるのに最高の環境に恵まれていました。しかし、化石燃料への転換が強まった昭和30年代を境に炭焼きの火は見られなくなっていました。近年、環境問題を契機に、炭の持つ素晴らしさが再認識されるようになり、先人の知恵と技の素晴らしさを実感し、地区の長老とともに復興させたのが「雁戸の白炭窯」です。雑木林との共生、先人の知恵と技を次代に継承するべく努力を続けていきたいと思っています。



窯出しの様子

炭焼き体験希望者募集中！実施期間は11月又は12月

担当理事：加藤渉・菊地重雄

◆川崎一仙台薪ストーブの会

川崎町の町有林を払い下げていただき、森の再生と薪の確保という目的で始めました。皆で荒れた森の手入れをし、薪ストーブに関する情報交換など楽しみながら活動をしています。また、作業を安全に行うための、各種講習会も実施しています。搬出や薪割りにはお子さんや女性も一緒に参加しています。定例活動は毎月第2日曜日と第1・第4水曜日および第3土曜日です。

担当理事：小笠原規夫・川崎清次



H26.10 馬による木材の搬出と芋煮会及びチェーンソー講習会開催

川や湖の水の恵みを活かすグループ

◆エネルギー部会

小さな水の力でもエネルギーになります。川崎町はそんなマイクロ水力に適した沢や小川など自然資源がいっぱいあります。私たちは空気や水を汚さない、そんなエネルギーの利用を考えて行きたいと思っています。追木今朝善さん自作のバッテリー(写真右)は3.11大震災のとき大活躍しました。



水車の1号機は平成25年5月に完成し、防犯灯を点けていますが、大雪と着水で羽根部分が破損してしまいました。現在は羽根の構造を変えて補修し二代目(写真上は初代、写真中が二代目)として稼働中です。五割ほど効率が上がりました。一番下の写真は水車で発電した電気を防犯灯として、現在、川崎森林組合とびっぴハウスの入り口で夜間に活用されています。

クリスマスシーズンにはイルミネーションにも活用され、多くの町民に喜んで頂きました。

2号機は粉挽きもできるものにしようと研究中です。定例会は毎月第3木曜日19時～びっぴハウスで行います。参加される方は事前にご連絡

くださるようお願い致します。

事務局(0224-87-2270)  
現場担当桜台(090-3368-1010)  
Mail: routeg@sakuradai.jp  
担当理事：齋藤勝廣・桜台清志



田や畑の恵みを活かす・エネルギーに活かすグループ

◆『安全な農作物づくり』グループ

木炭・木酢液の効果を確認したり、電子水の使用により、より安全で安心な農作物づくりに取り組んでいるグループです。

「旬穀菜館」(写真右)を拠点に、農産物とその加工品の直売による安全・安心な農作物の拡販に努めています。また、試食会や講演会なども開催しつつ、技術の習得や仲間づくりを進めています。担当理事：真壁治平・大宮忠明



◆「ゴミも活かす」グループ

循環型社会のキーワードである四つのRを合言葉に、ゴミや汚染物質を減らし、資源を保護し、エネルギーを節約し、水を守る活動を実践し、そして、川崎町をゴミの少ない町、ゴミを大切に作る町にする活動を続けています。

釜房ダム周辺の清掃活動には川崎町民と下流住民が一緒になって参加しています。

ゴミを出さないのが一番、最低でもリサイクル。

担当理事：沼田良子



釜房ダム周辺の清掃活動【ゴミの分別作業中】

- ①ゴミを出さない
  - ②ゴミを減らす
  - ③繰り返し使う
  - ④再資源化
- リフューズ      リデュース      リユース      リサイクル